

アラ・ゴニャン研究員（アルメニア）



はじめまして。私はアルメニアから来日しましたアラ・ゴニャンです。

アルメニアはコーカサスと西南アジアの間に位置していて、アルペンヒマラヤ地震帯の活発な活動地域としても有名です。発生する災害は多岐にわたり、地震、干ばつ、洪水、地すべり、泥石流、強風、大雪、霜、霰などを経験しています。これらの様々な災害は私たちの生活を日々脅かしています。さらに詳しくみても、アルメニアは特に世界でも最も活発な地震帯に属しているため、多くの地震被害を経験をしていま

す。歴史的には 1988 年に発生したスピタク地震を挙げることができます。スピタク地震規模はマグニチュード 7.0 で国内にある多くの建築物を崩壊させ、25,000 人以上の尊い人命を奪いました。

そこで、アルメニアにおける地震対策は主として私が所属する国家地震防災研究所 (NSSP: National Survey for Seismic Protection) が担っています。NSSP は上述した 1988 年 12 月 7 日に発生した地震の後、1991 年に設立された政府の組織です。NSSP は主に地震観測システムの開発や人命を守るため地震被害を抑制させることを目的としています。

私はエレバンを担当地域として含む NSSP の西地区の部署で働いています。そこでは、特に首都エレバンを対象とした地震被害の抑制を目的として業務を行っています。この部署での主な業務目的は、地震被害評価の算出や関連した地震及び環境被害の軽減です。さらに、同地域の地震のモニタリングやエンジニアの派遣なども行っています。首都エレバンと同様に、西地区全体で地震情報を共有できるよう情報ネットワークの構築が課題となっています。

ADRC はアジア地域における災害管理、防災などの分野において、特に関連する情報共有を促進させる実施機関であると思います。また、ADRC は防災に関する技術情報をメンバー国に提供するだけでなく、それらの知識をプロジェクト等などで実践に活かしてきています。これら多くの活動を実践する ADRC において、私は客員研究員プログラムにおける役割がとても重要であると思います。私が日本に滞在する期間、様々な防災関連機関に訪問することができると思います。また、私からもアルメニアで習得した多くの経験を研究員の皆様にも提供することができると思います。

具体的には、日本では災害予防、緊急時対応、災害後の復興、または対策など様々なことを学ぶことができます。ADRC で得られる経験が、私がアルメニアに帰国した後も、担当する防災業務に十分に生かせることができると確信しています。最後に、このような機会を頂いた日本政府と ADRC、そしてアルメニア政府に対して深く感謝を申し上げます。